

平成 29 年度第 2 回医療安全外部監査委員会 結果概要

日 時：平成 30 年 2 月 5 日(月)9：55～11：50

場 所：国立研究開発法人国立がん研究センター管理棟 特別会議室

出席者：

外部監査委員：国立研究開発法人国際医療研究センター 大西 真 病院長

さわやか法律事務所 田島 優子 弁護士

NPO 法人パンキャンジャパン 眞島 善幸 理事長

国立がん研究センター 荒井 保明 理事長特任補佐

国立がん研究センター 長谷川 博 統括事務部長

病院側対応者：西田俊朗病院長、片井均医療安全担当副院長、岩田敏感染制御室長、

久々湊由佳子院内感染管理者、室谷美々子認定感染管理看護師、

宮北康二副医療安全管理室長、寺門浩之薬剤部長、関口昌利医療安全担当副薬剤部長、

麻生智彦放射線技術部長、川村公彦臨床検査技師長、内川正弘副臨床検査技師長、

宮越基副臨床検査技師長、入江景子主任臨床工学技士、土師菜緒子医療安全管理者、

依田明久患者医療対話推進室長、杉本麻紀患者医療対話推進者、

藤野弥生医療安全担当副看護師長、山岡しおり医療安全担当看護師、

山田諭史医療安全担当診療情報管理士

1. 議 事

1) 医療安全管理について (資料)

- ・報告件数推移
- ・医療安全に関する研修開催状況
- ・医療安全対策推進のための方策と評価
- ・医療安全管理に係る他施設との連携
- ・医療安全管理室、医療安全管理部会ラウンド報告
- ・事故調査委員会の開催状況と事案紹介

*外部委員意見

⇒カルテ記載指針に沿って、医師の説明に対して、患者家族が理解しているかの監査はできているか。診療情報管理室でのカルテ監査で、患者家族の説明同意に対する反応についても定期的に監査を行う必要がある。

⇒検査結果の見落とし、レポートの未読については、システム上の対策の他、第三者的視点でチェックする取り組みもあるとよい。

⇒入院患者数や 75 歳以上入院患者数の推移、患者影響度レベルの定義等が参考資料としてあるとよい。

2) 医療機器安全管理について (資料)

- ・医療機器安全管理責任者の業務
- ・臨床工学部門、臨床検査部門、放射線部門の研修実施状況、機器の保守点検実施状況、情報収集・改善のための方策

*外部委員意見

⇒特になし

3) 医薬品安全管理について (資料)

- ・ 医薬品安全管理責任者の業務
- ・ 医薬品の安全使用のための研修実施状況
- ・ 医療安全専従薬剤師の活動
- ・ 医薬品安全管理上の問題事例とその対策

*外部委員意見

⇒特になし

4) 感染管理について (資料)

- ・ 感染制御体制
- ・ 感染症発生状況
- ・ 院内感染対策推進のための方策 (各種ラウンド) と評価
- ・ 院内感染対策に関する研修開催状況
- ・ 感染防止対策に係る他施設との連携

*外部委員意見

⇒年間の感染症発生状況を明示できるとよい。

5) 高難度新規医療技術等について (資料)

- ・ 高難度新規医療技術導入フローチャート
- ・ 新規医療技術導入小委員会受付状況
- ・ 未承認薬使用小委員会受付状況

*外部委員意見

⇒高難度新規医療技術等導入フローチャートが分かりにくいため、診療の質管理室の業務と、各委員会での業務を縦に並べないよう別にして記載する方がよい。

2. 監査結果

- ・ 全体的に適性に医療安全管理体制が整備されている。
- ・ 医療安全は起こる前のリスク予知を行っているかが重要である。
- ・ 医療安全に対して、危険と思うことを無記名で投稿できるサイトを作成し、その情報から対策を考慮するなど、予防から対策を実施する必要がある。
- ・ 日頃の活動内容について、病院全体としての体制の評価が可視化されたものがあるとよい。

3. 次回の開催予定

平成 30 年 5～7 月頃に開催予定。

以 上